

令和5年度 事業報告

社会福祉法人 ウエルネス

今年度は、5月に政府の新型コロナウイルス対策が5類に変更になったが、職員の感染は単発で複数見られたが、施設内感染はなく経過。特養の稼働率は4月に100%を達成。年間稼働率は95.9%を維持した。新型コロナ、インフルエンザともにお客様の感染は一度も見られず経過している。その理由として、職員全体の危機管理や体調不良時に休みやすい環境、協力体制が構築されていることが考えられる。BCP計画にも盛り込み、維持向上に努める。また、通所介護は、コロナ下における不安からキャンセル率が上がり、稼働率が67.1%と低下した。地域包括は対面の訪問回数は増えてきている。地域の支援事業所の閉鎖もあり、市内のケアマネジャーの総数が減少している。そのため、委託の件数が伸びず、直営件数が増えた。

今年度は、24年4月（6月に延期）からの介護報酬改定への最終準備期間であったが推進する体制づくり、を理解し準備した。

1、地域への貢献

今年度の地域活動は、コロナ感染の状況を見ながら、地域コミュニティや町内会等との連携を図りながら、地域密着の活動をより推進した。

- | | | | |
|--------------|--------------------------|----------|-----------|
| 「うんどう教室」 | 12回。 | 「脳の健康教室」 | 16回+7回実施。 |
| 「オレンジカフェ」 | 14回実施（本所6回、葛巻3回、柳橋5回） | | |
| 「葛巻地区認知症フェア」 | 11月に実施。その他地域にも出張講座実施の予定。 | | |
| 「通所運営推進会議」 | 2回実施した。 | | |
| 「特養運営推進会議」 | コロナ状況を見て、1回実施した。 | | |

2、健全経営と職員の処遇改善

今年度も引き続き「介護職員処遇改善事業」「介護職員等特定処遇改善事業」「ベースアップ等支援金事業」を実施した。

ただ、介護職員処遇改善支援事業で、賃金改定の原資はできたものの、本来の介護報酬は据え置き、あるいは減額が続いており、今後の物価上昇、電気料等のインフラ料金の高騰で、経営はかなり厳しくなっている。

経費節減策も図っているが限界に近く利用者の生活に影響は出せないジレンマがある職員全体の危機管理の浸透や体調不良時に休みやすい環境、協力体制が構築することが施設で感染者が出ない大きな理由となっており、より強化していく。

健康診断は、法人全職員（短時間パートも含め）全額法人負担で7・8月に実施した。夜勤職員は、春、冬の2回行った。留意を指摘された職員には、受診・治療継続

を勧めている。

福利厚生の一環として、企業主導型保育園「みつけの保育園」と提携するなど、該当職員が安心して勤務できる環境を整えている。

政府の支援が減少するので、コロナ感染休業補償保険（特養 1 日 20 万円×14 日間）。（通所 1 日 11 万円）に継続加入して、不測の休業に備えた。

① 特養：

●「喀痰吸引実習」は、2 名が受講し、資格者は 9 名となった。

●社内研修は、インターネットによる研修システムに加入し、年間研修計画のもとに月 1 回介護職員会議にて、施設内研修を継続実施した。

また月 1 回グループ内研修を実施、外部講師による研修も実施した。

●外国人介護人材の活用

ベトナム人技能実習生が 1 年半の経験で勤務姿勢、内容とも順調に取得しており、2 月から夜勤業務を開始した。

●短期・長期借入金の組み立てと修繕積立金

厳しい経営環境下において、支払資金残高は維持できた。また年度末には、修繕積立金 2 4 0 万円を計上した。

●入院者を出さないために各職種のやるべきことを自覚し、実施していくことにより、4 月に稼働率 1 0 0 % を達成し。年間を通じて高稼働率を目指した。

●コロナ対策門緩和されてきて、家族の面会希望も増えている。地域交流室での面会となるが、令和 6 年 3 月は、ほぼ毎日 1 組くらいの面会が実施されていた。

② 通所介護：デイサービス利用者が減少しており稼働率低下が起きて、平均稼働率は 67.1% であった。また長く利用されている方の体調不良による入院等により稼働率が低下しました。

●自宅での日常生活との連携を強化した介護計画のもとに、一体的なリハビリテーションと科学的介護に取り組んだ。

●「そいがぁ亭だより」を毎月発行した。

●ご利用者各自の情報交換のため、介護支援専門員に参加状況を綿密に行った。

●コロナ禍での脚力の低下を感じ、今年度は天気を見ながら市内の観光施設への外出支援の機会を増やした。

③ 地域包括支援センター：コロナ禍が明け、訪問や来所の相談が制限なくできるようになり、相談件数が伸びた。

●まちなか西コミュニティと立ち上げた、「チームオレンジ」で、月 1 回の「集いの場」の開設や、地域の認知症の予防啓もう活動を広げた。

○今期は政府のコロナ感染対策を見ながら計画の実施に努めた。

○「酒気帯び運転防止チェック」を継続実施した。

○諸物価が、広範囲に及び大きな影響が出た。特に電気料の高騰は大きい。

また電気管理の面でも電力・保安設備の更新で、以後7年分の一括支払いで102万円の支出を補正予算で計上した。

また、施設内の空調機の掃除を実施した。それにより、カビ防止、空調効率化、電気料軽減を図った。

○見附市出身の今井美穂さんに、グループ全体の「PRコーディネーター」に着任していただいている。SNSを中心にグループの広報を担っていただいている。